

大津百町瓦版

大津・町家・まちなか・いろいろ情報

夏 季 号 [No. 37]

2018年 7月

発行 大津の町家を考える会

大津市中央1丁目8-13

TEL・FAX 077-527-3636

Email: otsu.machiya@gmail.com

銅板で制作された見事な膳所城、生涯学習センターのロビーに置かれていて何時でも見ることができます。制作は山極千三氏



膳所と大津百町

近江大橋の西岸、湖上にせり出したかのような小さな森には、一五〇年前まで本多家六万石の膳所城が琵琶湖に白い影を映していました。四層の天守と十を超える櫓は、あたかも白い帯のように広がっていたといいます。

膳所城は一六〇〇年関ヶ原の戦いの後、天下人となった徳川家康が諸国の大名に命じて最初に作らせた天下普請のお城です。

膳所にお城が築かれたのは、関ヶ原の戦いに大きな影響を与えたという大津城攻防戦のあと、京の都や瀬田橋の警護と同時に、来るべき大阪の陣に備えるためには、琵琶湖や瀬田川、街道を扼した膳所が最適地であったからです。

現在では本丸跡は大津市の公園として市民の憩いの場になっていますが、昭和二六年までは風致地区に指定された民有地でした。住宅開発などされずに残されたのは幸運といってもよいほどです。堀も湖岸道路や公営住宅の整備に伴い埋め立てられましたから、膳所城をしのばせるものは膳所神社の表門などごくわずかです。しかし、城下町の特徴である狭隘で屈曲した道路のおかげで町割りは元禄時代とほとんど変わりません。いまでも古図を片手にかつての膳所の街を散策できるのは膳所の魅力の一つになっています。

大津百町は一万人を超える人口の町でしたが、大津代官所にはわずか六〇人ほどの武士や手代しかいませんでした。それに対して膳所は三千人ほどの住民のうち、七百人は侍や足軽たちでした。つまり大津百町が町人の町なら膳所は武士の町ということになります。お互いになぜこんな極端な街づくりをしたのでしよう。それは二つの町が互いに支えあうことで近世封建都市を形成していたからにほかなりません。大津百町の繁栄は膳所の武備に支えられていました。それは大津百町が繁栄に向かつてはばたく鶴であるなら、膳所は二六〇年間自分の役割を守り通した亀のようであったとも言えます。

「膳所まちづくり委員会副会長 寺田 智次」